

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(中学校用)

都道府県名	群馬県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	甘楽町立第一中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	22
生徒数	99	104	118	2	323	

研究の概要

1. 研究主題

自ら進んで学ぶ生徒の育成 - 個に応じた指導の工夫を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修では全教科で「個に応じた指導法の工夫」を実施した。全教員の指導力向上のためには、担当する教科での研修が望ましいと考えた。 ・習熟度別少人数指導は全学年の数学で実施した。
--

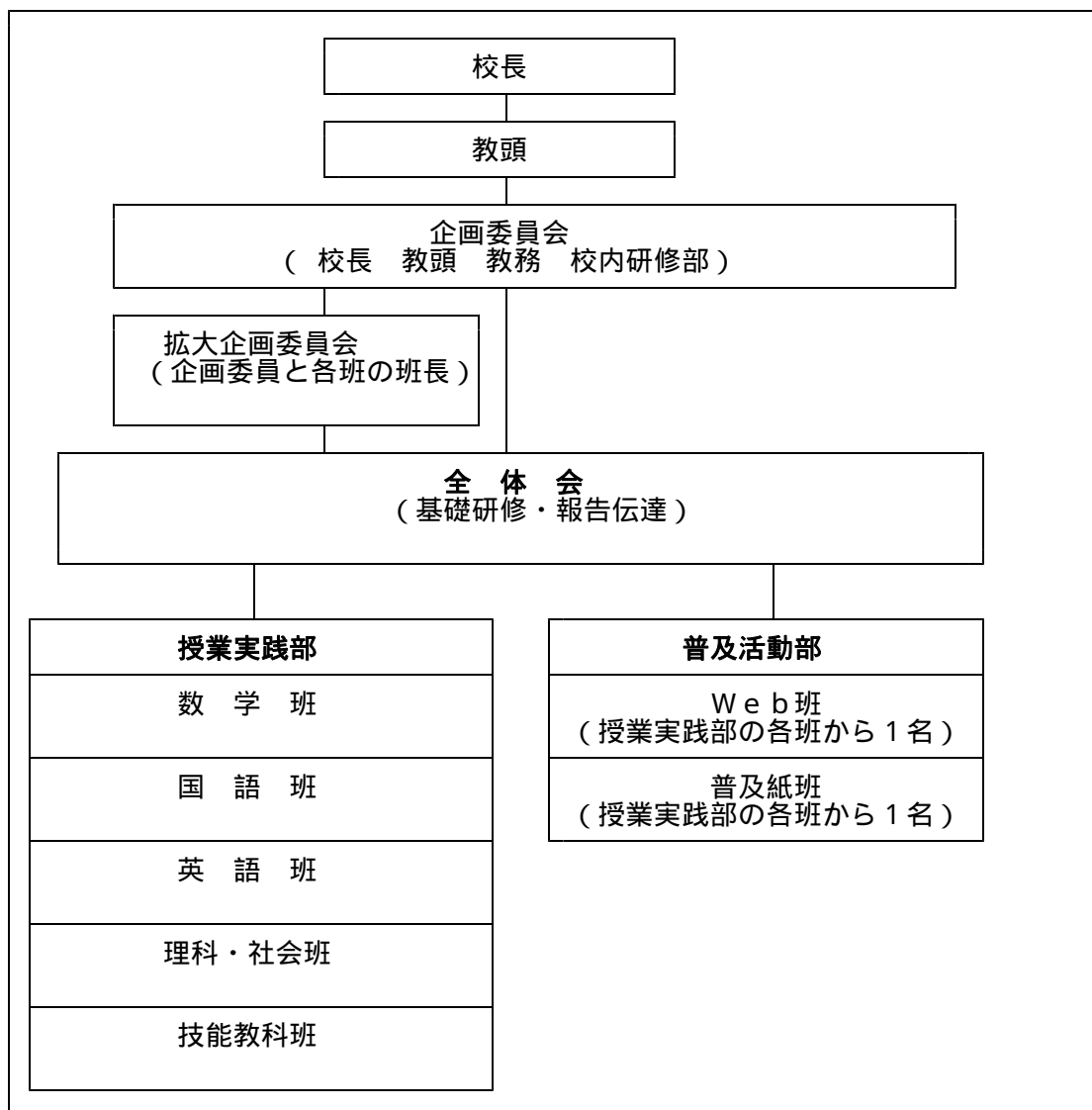
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p style="text-align: center;">「自ら進んで学ぶ生徒の育成」 - 個に応じた指導の工夫を通して -</p> <p>1 主題設定の理由 《学校教育目標から》 本校の教育目標は「高い知性と豊かな心を持ち、主体的に判断し行動できる、創造性豊かでたくましい生徒の育成」を基本目標とし、具体目標に以下の3点をあげている。 ○考え深く、やりぬく生徒(知育=創造的思考、自主自立、実行力) ○やさしく助け合う生徒(徳育=奉仕、協力、思いやりの心、国際理解) ○たくましく、健康な生徒(体育=強い意志、健康安全、体力の向上、明朗) これらの目標を実現することを念頭に置き研修主題の設定をはかった。 《生徒の実態から》 本校は、1年生3クラス(98名)、2年生3クラス(105名)、3年生3クラス(118名)、特学1クラス(2名)の計10クラスで編成されている。生徒はたいへん素直で、何事にもまじめに取り組むことができ、設定された学習課題に対して熱心に学習する生徒が多い。しかし、のんびりした生徒もあり、自ら課題を見つけ主体的に学習する態度や自己表現能力などは十分に身につけているとはいえない。また、各教科においても確かな学力や学び方を十分に身に付けているとはいえないのが現状である。 以上のことから、これからの生徒たちに個に応じた指導や、きめ細やかな指導を通し確かな学力を身につけさせ、自ら進んで学ぶ態度や能力を育成することが大切と考え、「自ら進んで学ぶ生徒の育成 - 個に応じた指導法の工夫」を設定した。 《副主題について》 今年度よりのフロンティアスクールの実施に伴い、きめ細やかな指導や個に応じた指導方法や指導体制を工夫し、広く地域に広めていくという学校としての大きな研修課題が与えられた。また、新指導要領の実施に伴い、個に応じた指導や評価などの工夫・改善が求められているとともに、教師自身の指導力の向上が求められている。そこで、全職員の共通理解のもと指導内容の具体化と一人一人の生徒の実態等から「自ら進んで学ぶ生徒の育成」にせまるために「個に応じた指導の工夫」を副主題にした。</p>
--------	--

<p>2 研修のねらい</p> <p>生徒が、確かな学力を身につけ、自ら進んで学習に取り組むためにはどのような指導方法や指導体制を工夫すればよいかを各班（教科）の実践を通して明らかにする。</p> <p>《本校の考える「自ら進んで学ぶ生徒」》</p> <table border="0"> <tr> <td>自ら問題や課題を見つけられる生徒</td> <td>《技能》</td> </tr> <tr> <td>知的好奇心や探求心を持った生徒</td> <td>《関心》</td> </tr> <tr> <td>自ら学ぶ意欲を持った生徒</td> <td>《意欲》</td> </tr> <tr> <td>学習習慣や学習態度が身についている生徒</td> <td>《態度》</td> </tr> <tr> <td>学び合い教え合える生徒</td> <td>《態度》</td> </tr> </table> <p>3 研修の見通し</p> <p>教科指導において、個に応じたきめ細やかな指導を展開すれば、確かな学力を身につけ、自ら進んで学ぶ生徒を育てることができるであろう。</p> <p>4 研修の内容</p> <p>(1) 個に応じた指導についての基礎研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力とは何か、各教科ごとに明らかにする。 ・各教科ごとの自ら進んで学ぶ生徒像と達成するための具体的な手だてを明らかにする。 ・個に応じた指導方法と、わかる授業、楽しい授業、学び合いのある授業について共通理解と関連を明らかにする。 ・指導体制はどうあるべきか明らかにする。 <p>(2) 授業実践の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の確かな学力を身につけさせるための教材や手だて、個別指導等の工夫改善を図る。 ・数学科においては習熟度別少人数学習について、教材や個別指導の工夫・改善を行う。 <p>(3) フロンティアスクールとしての普及活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web や普及紙により研修内容を広く地域に広める。 <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師（地域人材）の活用 ・選択教科の持ち方 	自ら問題や課題を見つけられる生徒	《技能》	知的好奇心や探求心を持った生徒	《関心》	自ら学ぶ意欲を持った生徒	《意欲》	学習習慣や学習態度が身についている生徒	《態度》	学び合い教え合える生徒	《態度》
自ら問題や課題を見つけられる生徒	《技能》									
知的好奇心や探求心を持った生徒	《関心》									
自ら学ぶ意欲を持った生徒	《意欲》									
学習習慣や学習態度が身についている生徒	《態度》									
学び合い教え合える生徒	《態度》									

<p>平成 16 年度</p>	<p>テーマ</p> <p>「自ら進んで学ぶ生徒の育成」 - 個に応じた指導の工夫を通して -</p> <p>研究の見通し</p> <p>教科指導において、個に応じたきめ細やかな指導を展開すれば、確かな学力を身につけ、自ら進んで学ぶ生徒を育てることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の評価規準を評価項目に沿って単元ごとに見直し、おおむね満足の状況をより具体化した評価計画及び評価方法を工夫する。また、生徒の実態を詳しくつかみ個に応じた指導に生かす。 ・個に応じた指導では、課題解決的な学習を取り入れた単元構成の工夫を全教科で作成し実践する。 ・習熟度別少人数指導について指導計画や指導形態を工夫するとともに、個に応じた教材や手だて個別指導についてさらに工夫し実践する。 ・習熟度別少人数指導においても課題解決的な学習を取り入れた単元の計画や評価計画をつくり実践する。 ・基礎的事項が十分に身に付いていない生徒へは、選択教科の工夫や補充的学習の充実を図る。また、長期休業中などの補習や、朝や放課後の質問時間の設置などを工夫する。
-------------------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 基礎研修を通しての成果

確かな学力について明らかになった内容

- 各教科ごとの確かな学力を確認することができた。
- 確かな学力を具体的に示したものは「指導要領の内容である」
- 各教科の確かな学力は「評価規準」や「評価項目」である。
- 各教科での具体的な確かな学力を身につけさせることは、各教科でこのような生徒になって欲しいという「めざす生徒」を明らかにすることであり、「おおむね満足の状態」を明確にする事である。

個に応じた指導について明らかになった内容

《研修部・数学班》

個に応じた指導とは、単に個別な指導を充実をするというだけでなく、生徒の習熟度のもとより、生徒の個性や興味・関心に応じられる指導をおこなうことである。生徒にとって「わかる授業」「楽しい授業」「主体的に活動する場面のある授業」「学び合いのある授業」を展開できれば、「個に応じた指導」ができていと考えてよい。

《国語班》

学力差のみではなく、興味・関心の差や個性の差も個と考えた。個の力を現実的に伸ばせる授業と、多くの興味に対応できる授業の構成を工夫することを個に応じた指導ととらえた。

《英語班》

授業中の机間巡視ができること、習熟度にあわせた課題を生徒に与えられることととらえた。

《理科・社会班》

評価項目をもとに「おおむね満足の状況」に達していない生徒に対する「おおむね満足の状況」にさせるための支援、「おおむね満足の状況」に達し「十分満足の状況」を達成させるための生徒への支援、「十分満足の状況」を達成した生徒の支援を考え、指導案に位置づけ指導をおこなうことを個に応じた指導ととらえた。

(2) 授業実践での成果

《全体》

指導計画・評価計画を綿密に立てて実践した単元では、生徒の実態に応じた指導ができた。また、単元ごとの評価規準を明確にした指導計画や評価計画を作成し実践することが、個に応じた指導をおこない確かな学力を身につけさせる上で、最も大切なことであることがわかった。

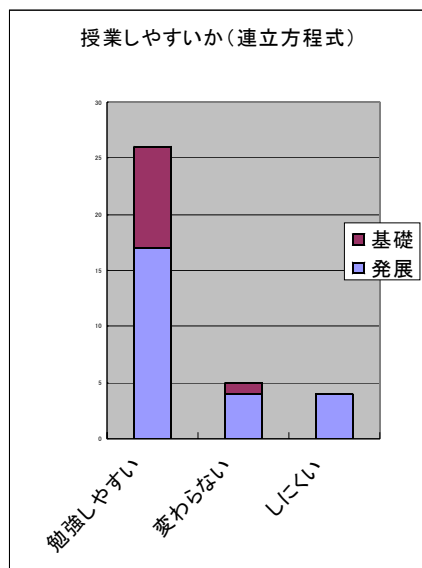
《数学班》

習熟度別少人数指導における指導の工夫と成果

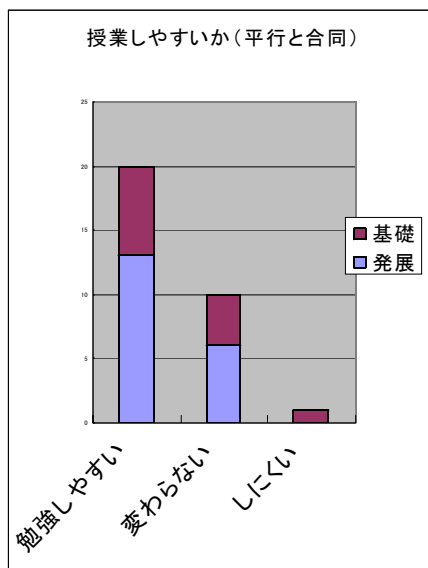
クラス分けでは、全学年とも基礎コースと発展コースの2コースに分けた。プレテストと生徒の希望を考慮する方法をとったが、生徒の希望を生かしているため、グラフ1、グラフ2(2年1組)に示すように生徒も少人数指導の方が学習しやすいと感じていることがわかる。

平行と合同の単元で、基礎コースにおいて証明の考え方を身につけさせるため、思考過程に沿ったワークシートなどを作成し段階的に学習が進められるよう工夫した。その結果、グラフ3、グラフ4に示すように単元別テストで、平均点が向上し、下位群の生徒の学力向上がみられた。

平行と合同の単元で、発展コースにおいて生徒の発想や思考力を伸ばすために生徒の興味や関心に沿った課題を工夫し自分の能力にあった問題を自分で作成できるように授業を展開した。その結果、グラフ5、グラフ6に示すように単元に対する興味が増し意欲的に学習に取り組むようになった。

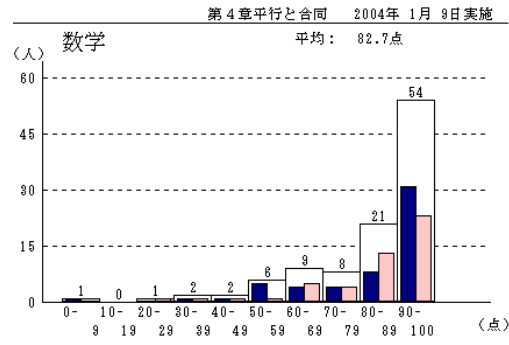
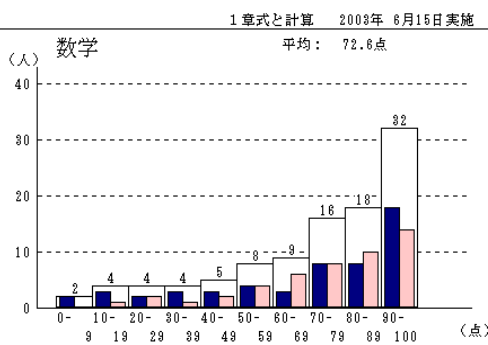


グラフ1



グラフ2

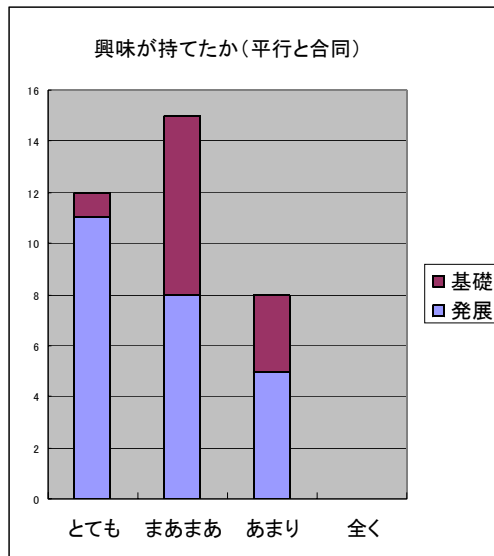
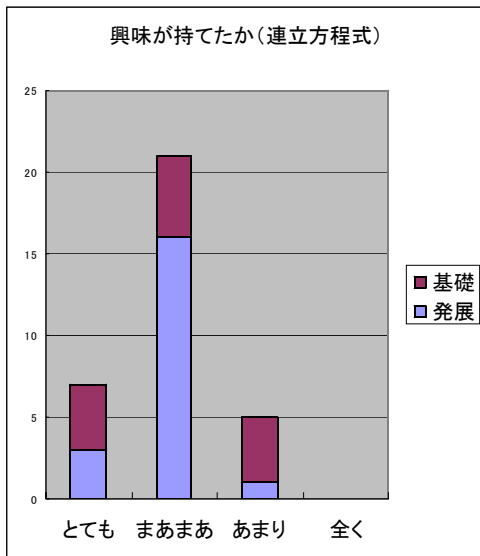
グラフ1は連立方程式学習後の意識調査グラフ2は平行と合同学習後の意識調査である。ともに学習しやすいとこたえている生徒が多いことがわかる。



グラフ 3

グラフ 4

グラフ 3は、式と計算の単元テストの結果であり、グラフ 4は平行と合同の単元テストの結果である。下位群の生徒が少なくなっていることがはっきりとわかる。これは、この単元での下位群の生徒の到達度が高かったことを示している。今まで学習した基礎的事項の習得もよかったと考えられるが、思考にそったワークシート等の活用により、個別に指導ができ下位群の到達度が上がったものと考えられる。



グラフ 5

グラフ 6

グラフ 5は連立方程式終了後の意識調査、グラフ 6は平行と合同終了後の意識調査の結果である。グラフ 6から、平行と合同の単元では、発展コースで、以前よりとても興味を持てたとこたえている生徒が多いことがわかる。これは、この単元でおこなった生徒の興味関心に沿った課題づくりの工夫が効果的であったためと考えられる。

《国語班》

「聞く・話す」という実際の経験や体験を授業の中に増やすことが「聞く・話す」力を身につけるには有効であった。

個々の興味に応じた教材を設定することができた単元では、生徒は授業中生き生きと活動し、主体的な取り組みがみられた。

個々の興味に応じた教材を設定した授業でTTを行ったところ、一人一人の興味に目を向けることができ、1人でやるよりも効果的な支援ができた。

評価の手段として、プリントを使用したか、プリントに自己評価ができる項目を盛り込むことによって生徒の実態や意識をつかむことができた。

授業の中に「教え合う場」を取り入れたか、活発な「グループ学習」ができる工夫をおこなうことにより、全体的に「話す・聞く」の力の向上がみられるとともに、低位の生徒の能力の向上が図れた。

《英語班》

習熟度別に2コースに分け、それぞれのコースをTTで指導するという体制をとったところ、生徒は習熟度に合った活動ができ、興味関心を高めるとともに生徒の参加意欲を高めることができた。

1年生の英語に興味関心が少ない生徒に対して、絵カードを使った活動を取り入れたところ、生徒はゲーム感覚で取り組み学習意欲を高めることができた。

《理科・社会班》

【理科】

単元全体を貫くような課題が持てるように、導入時の実験道具の工夫や、自ら疑問や課題を持ち意欲的に学習に取り組めるような実験材料の選定をおこなうことにより、生徒は課題や目的を的確に把握することができた。また、導入の実験で生活体験との対比や五感による直接体験を取り入れたことで、興味関心や学習意欲を高めることができた。

【社会】

地域資料の提示など実物の活用をおこなったところ、生徒は意欲的に活動することができた。

ワークシートに基礎的な課題から発展的な課題を設定したり、生徒個々が課題を設定できる工夫をおこなったところ、主体的な活動がおこなわれるようになり、生徒個々の能力に応じたまとめ方ができるようになった。

《技能教科班》

【美術科】

版画指導での実践

・教材選択の工夫をおこなうことにより細かな表現が苦手な生徒でも活動や表現の場面を持つことができるようになった。

・具体的には、作業が苦手な生徒に対して、トレーシングペーパーを使用することにより、レタリングをしなくても資料の文字を活用することで表現も広がり、時間も有効に使えるようになった。

【保健体育科】

バスケットの指導での実践

・生徒の運動能力にあったシュート方法を選択させることにより、シュートが成功するための方法を自ら工夫する姿が見られ、意欲的に練習に取り組むようになった。

学習カードの活用により、生徒一人一人の習熟度等の実態を正しくつかむことができるようになった。また、生徒自身の自己評価能力の向上がみられた。

(3) 普及活動での成果

Webページの作成をおこない、研修の内容や公開授業の内容等について公開した。

普及紙を発行し、近隣地域の学校への情報提供をおこなった。

2. 今後の課題

評価規準を元に具体的な評価項目について吟味し、「おおむね満足の状況」を明らかにする。

指導と評価の一体化ができるような指導計画及び評価計画の具体化を図る。特に各教科とも課題解決的な学習を取り入れた指導計画を作成し実践する。

習熟状況や興味関心などによる個別指導について、指導法をさらに工夫し、生徒にとってわかりやすい楽しい授業づくりをめざす。

特に、体験活動や操作活動を取り入れた授業づくりを工夫したり、実物等を有効に活用した授業づくりを工夫する。

基礎的基本的事項の定着をめざし、補習や補充の学習を工夫する。特に選択教科の内容や学習計画を吟味し、各教科との連携を図る。

Web・普及紙等を工夫改善し、普及活動の充実を図る。

学力把握のための学校としての取組

数学科において「単元テスト」「期末テスト」「意識アンケート」「プレテスト」「教研式学力検査」を実施している。	
単元テスト	単元ごとの学習状況を評価するためのテスト 単元の学習内容を特に知識理解・技能・数学的思考の観点について評価する。単元終了ごとに実施する。
期末テスト	学期の最後に今までの知識の習熟の程度の確認のために実施する。 (全教科実施)
プレテスト	新しい単元の始まる前に次の単元のクラス分けの資料にするために実施する。
意識アンケート	単元が終了ごとに実施する。内容は、関心・意欲や単元の内容に対する自己評価等である。
教研式学力検査	数学の学力の実態をとらえるために本年度実施した。来年度初めにも実施し、この一年間の変容を確認する予定である。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業と授業研究会を実施した。	
実施日	平成15年11月25日
場所	本校
対象	群馬県内の中学校教員
目的	本校の研究の成果を公開するとともに、学校間での個に応じた指導についての意見や情報を交換する。
HPを作成し、研修のねらい・研修内容・授業実践等を公開している。	
普及紙を発行し、公開授業のお知らせ・公開授業の内容の公開等を近隣市町村に配布した。	
フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動予定	
今年度は、教育事務所主催の校内研修主任を対象とした協議会に参加し、自校での実践を報告した。	
来年度は、町内の教育委員会と連携し、町内で研修内容の報告や協議を実施する予定でいる。	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--|---|--|---|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 3学級以下 | <input type="checkbox"/> 4～6学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 7～9学級 | <input checked="" type="checkbox"/> 10～12学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 13～15学級 | <input type="checkbox"/> 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input type="checkbox"/> Tによる指導 | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 社会 | <input type="checkbox"/> 数学 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input checked="" type="checkbox"/> 美術 | <input checked="" type="checkbox"/> 技術・家庭 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 保健体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |